



2026年2月期 第3四半期決算短信【日本基準】(連結)

2026年1月9日

上場会社名 株式会社ポプラ

上場取引所 東

コード番号 7601

URL <http://www.poplar-cvs.co.jp/>

代表者(役職名) 代表取締役社長

(氏名) 岡田 礼信

問合せ先責任者(役職名) 取締役常務執行役員経営企画室長

(氏名) 大竹 修

TEL (082) 837-3510

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年2月期第3四半期の連結業績(2025年3月1日～2025年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業総収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年2月期第3四半期	8,860	△ 3.4	285	△ 21.1	277	△ 23.9	173	△ 48.3
2025年2月期第3四半期	9,171	△ 2.8	362	13.4	365	29.6	335	△ 7.8

(注) 包括利益 2026年2月期第3四半期 181 百万円 (△ 40.3 %) 2025年2月期第3四半期 303 百万円 (△ 18.3 %)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
		円	銭
2026年2月期第3四半期	12 78	10	53
2025年2月期第3四半期	25 58	20	28

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2026年2月期第3四半期	4,296	924	21.5
2025年2月期	3,780	780	20.7

(参考) 自己資本 2026年2月期第3四半期 924 百万円 2025年2月期 780 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
2025年2月期	円 0	銭 00	円 0	銭 00	円 0	銭 00
2026年2月期	—	0 00	—			
2026年2月期(予想)				0 00		0 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年2月期の連結業績予想(2025年3月1日～2026年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業総収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	11,497	△ 4.4	373	△ 8.5	373	△ 9.5	247	△ 34.2

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1)当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4)発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年2月期3Q	13,938,133 株	2025年2月期	11,787,822 株
② 期末自己株式数	2026年2月期3Q	2,151,234 株	2025年2月期	924 株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年2月期3Q	11,786,899 株	2025年2月期3Q	11,786,914 株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳は以下のとおりです。

A種種類株式	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年2月期	円 錢 —	円 錢 —	円 錢 —	円 錢 3,250 00	円 錢 3,250 00
2026年2月期	円 錢 —	円 錢 —	円 錢 —		
2026年2月期(予想)				3,500 00	3,500 00

B種種類株式	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年2月期	円 錢 —				
2026年2月期	円 錢 —	円 錢 —	円 錢 —		
2026年2月期(予想)				1,294 50	1,294 50

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(収益認識関係)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、賃上げによる所得環境の改善が見られるものの、長引く物価上昇が家計を圧迫し、消費者の生活防衛意識や節約志向は一層強まっております。業界におきましては、原材料価格やエネルギーコストの高騰、人手不足に伴う人件費や物流費の上昇が続いており、業態の垣根を越えた厳しい競争環境が継続いたしました。

このような状況の中、当社グループは、安定した黒字経営体制の確立と財務基盤の増強に取り組んでまいりました。

<売上と利益の状況>

店舗売上におきましては、継続的な仕入価格の上昇に伴う価格の改定が主因となり、既存店売上高は44ヶ月連続で前年を上回り、当第3四半期連結累計期間では104.6%と堅調に推移いたしました。

自社工場製品の販売につきましても、増産体制の確立および販路開拓を推進した結果、外部事業者向けの弁当・冷凍惣菜が伸長いたしました。

一方、利益面におきましては、米や海苔をはじめとする原材料価格の高騰、エネルギーコストの高止まり、および人件費の上昇が業績を圧迫いたしました。また、工場増産に向けた先行投資も重なったことなどから前年同期を下回る結果となりました。この結果、当第3四半期連結累計期間の営業利益は285百万円（前年同期比21.1%減）、経常利益は277百万円（同23.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は173百万円（同48.3%減）となりました。

セグメントごとの活動状況は以下のとおりであります。

<スマートストア事業>

「ポプラ」「生活彩家」ブランドを中心に、施設内等の小規模店舗を展開するコンビニエンスストア事業および自社工場におきましては、売上高の拡大に向け、発注の精度向上による欠品防止や品揃えの最適化、QSC（クオリティ・サービス・クリンリネス）の再徹底に取り組んでまいりました。施設内店舗におきましては、これまで営業時間終了後、閉店としていた時間帯についてセルフ決済システムを活用した「無人営業モード」への切り替えを行うことで営業継続することを推進し、オペレーションコストを抑制しつつ営業時間の延長を図るなど、収益性の改善に努めました。

商品面におきましては、主力商品である「ポップ弁」の品質を抜本的に見直した結果、売上が大幅に伸長いたしました。また、「昭和100年」を記念した広島の老舗企業三社とのコラボレーション商品「大きなおむすび 広島づくし」の発売や、大学・高校および社会福祉法人といった地域社会と連携した共同開発商品の展開など、地域密着型のマーチャンダイジングを強化いたしました。

自社工場を管轄する製造部門におきましては、ドラッグストア向け販路の拡大や、老健施設向け完全調理済み冷凍惣菜の受注が大幅に増加したことにより、懸案であった工場稼働率が大きく向上いたしました。さらに、生産の効率化と急増する需要に対応するため、2025年7月にトンネル式フリーザーを導入し、冷凍惣菜のさらなる供給体制強化を図っております。

以上の結果、当セグメントの営業総収入は3,825百万円（前年同期比1.0%減）となりましたが、先行投資や諸経費の影響等により、営業損失は207百万円（前年同期は84百万円の営業損失）となりました。

<ローソン・ポプラ事業>

ローソン・ポプラ事業におきましては、「お客様から“選ばれる売場”を常に実現」することを目標に、品揃えの拡充、店舗清掃の徹底、および接客品質の向上に注力いたしました。

販促面では、ローソン創業祭における增量企画「盛りすぎチャレンジ」や、対象のおにぎりを購入されることで飲料を進呈する「ハピ得祭り」等のキャンペーンが奏功し、客数の増加に寄与いたしました。商品面では、全面リニューアルを実施した「3つ星ローソンおにぎり」が販売を牽引したほか、ローソン・ポプラ事業の強みである、お店で炊いたご飯をその場で盛り付ける「ポップ弁」において、商品力の強化とデリバリーサービスの活用を推進し、販売拡大を図りました。この結果、既存店売上高前年比は108.0%と堅調に推移いたしました。

店舗展開については、広島県庁舎敷地内や小豆島への出店を含め7店舗の新規出店を実施した結果、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は127店舗（前年同期末比10店舗増）となりました。

以上の結果、直営店から加盟店への切り替えが進んだ影響等により、当事業の営業総収入は4,517百万円（前年同期比3.7%減）、営業利益は755百万円（同9.2%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は前連結会計年度末に比較し365百万円増加し2,106百万円（前連結会計年度末比21.0%増）となりました。これは、主に当第3四半期連結会計期間末が金融機関の休業日であったことにより債務の支払いが翌営業日に繰り越されたこと等から現金及び預金が292百万円増加したことによるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末の固定資産は前連結会計年度末に比較し151百万円増加し2,190百万円（前連結会計年度末比7.4%増）となりました。これは、主に自社工場の製造効率化のために設備導入したこと等から有形固定資産が179百万円増加したことによるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は前連結会計年度末に比較し382百万円増加し2,006百万円（前連結会計年度末比23.5%増）となりました。これは、主に当第3四半期連結会計期間末が金融機関の休業日であったことにより債務の支払いが翌営業日に繰り越されたこと等から買掛金が270百万円、加盟店買掛金が75百万円及び未払金が136百万円増加したこと及び、返済に伴い1年内返済予定の長期借入金が89百万円減少したことによるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末の固定負債は前連結会計年度末に比較し10百万円減少し1,365百万円（前連結会計年度末比0.7%減）となりました。これは、主に新規借入、返済に伴い長期借入金が125百万円増加、一方で返済に伴いリース債務が88百万円、長期預り金が28百万円減少及び、履行に伴い資産除去債務が18百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は前連結会計年度末に比較し143百万円増加し924百万円（前連結会計年度末比18.4%増）となりました。これは、主に親会社株主に帰属する四半期純利益が173百万円であったこと、優先株式の配当支払いが45百万円あったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年2月期の業績予想につきましては、2025年4月11日に公表いたしました内容から変更ございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年11月30日)
資産の部		
流动資産		
現金及び預金	806,120	1,098,745
売掛金	123,058	166,886
商品及び製品	246,132	225,016
原材料及び貯蔵品	25,026	27,944
その他	586,625	599,823
貸倒引当金	△45,730	△12,099
流动資産合計	1,741,232	2,106,316
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	104,711	132,409
土地	1,249,635	1,249,635
その他（純額）	205,520	356,935
有形固定資産合計	1,559,867	1,738,980
無形固定資産	3,315	1,086
投資その他の資産		
投資有価証券	61,412	70,712
敷金及び保証金	306,351	278,298
その他	119,153	132,927
貸倒引当金	△11,085	△31,884
投資その他の資産合計	475,832	450,053
固定資産合計	2,039,015	2,190,120
資産合計	3,780,248	4,296,436

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	258,771	529,608
加盟店買掛金	221,217	297,150
1年内返済予定の長期借入金	153,712	64,438
預り金	97,590	86,429
未払金	332,879	469,790
未払法人税等	97,550	78,347
賞与引当金	20,447	3,793
その他	442,135	477,064
流動負債合計	1,624,304	2,006,622
固定負債		
長期借入金	41,288	166,354
リース債務	173,725	85,289
退職給付に係る負債	425,785	424,416
資産除去債務	194,781	176,773
長期預り金	534,357	505,908
その他	5,172	6,299
固定負債合計	1,375,111	1,365,042
負債合計	2,999,415	3,371,664
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	—	320,000
利益剰余金	761,448	889,517
自己株式	△408	△312,203
株主資本合計	791,039	927,314
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,158	12,335
退職給付に係る調整累計額	△16,365	△14,878
その他の包括利益累計額合計	△10,207	△2,542
純資産合計	780,832	924,772
負債純資産合計	3,780,248	4,296,436

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年11月30日)
営業総収入		
売上高	6,549,560	6,069,925
営業収入	2,621,860	2,790,619
営業総収入合計	9,171,420	8,860,545
売上原価	5,031,906	4,796,290
営業総利益	4,139,513	4,064,254
販売費及び一般管理費	3,777,201	3,778,307
営業利益	362,312	285,946
営業外収益		
受取利息	521	1,952
受取配当金	1,729	612
受取手数料	454	691
開発負担金収入	8,958	3,649
違約金収入	5,016	1,390
貸倒引当金戻入額	691	14,546
その他	4,723	8,394
営業外収益合計	22,095	31,237
営業外費用		
支払利息	15,251	11,822
株式交付費	—	23,723
コミットメントフィー	3,501	1,871
その他	438	1,879
営業外費用合計	19,192	39,295
経常利益	365,216	277,888
特別利益		
固定資産売却益	768	129
投資有価証券売却益	61,293	—
特別利益合計	62,062	129
特別損失		
固定資産除却損	0	0
減損損失	15,914	22,898
店舗閉鎖損失	700	521
特別損失合計	16,615	23,420
税金等調整前四半期純利益	410,663	254,598
法人税、住民税及び事業税	75,807	78,633
法人税等調整額	△882	2,395
法人税等合計	74,925	81,028
四半期純利益	335,738	173,569
親会社株主に帰属する四半期純利益	335,738	173,569

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年11月30日)
四半期純利益	335,738	173,569
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△23,952	6,177
退職給付に係る調整額	△8,311	1,487
その他の包括利益合計	△32,263	7,664
四半期包括利益	303,475	181,234
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	303,475	181,234
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(自己株式の取得)

当社は、2025年10月16日開催の臨時株主総会決議に基づき、2025年10月17日付で株式会社ローソンより自己株式2,150,300株の取得を行い、自己株式が311,793千円増加しました。この結果、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が312,203千円となっております。

(第三者割当による種類株式の発行)

当社は、2025年10月16日開催の臨時株主総会決議に基づき、2025年10月17日付でHiCAP 5号投資事業有限責任組合及びMIT広域再建支援投資事業有限責任組合に対する第三者割当の方法によるB種種類株式の発行を行いました。この結果、当第3四半期連結会計期間において資本金が160,000千円、資本準備金が160,000千円増加しました。

(資本金及び資本準備金の減少)

当社は、2025年10月16日開催の臨時株主総会決議に基づき、2025年10月17日付で資本金160,000千円、資本準備金160,000千円をそれぞれ減少させ、その他資本剰余金へ振り替えました。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号 2022年10月28日）、「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号 2022年10月28日）及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日）を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年11月30日)
減価償却費	41,682千円	46,667千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自2024年3月1日 至2024年11月30日）

1. 報告セグメントごとの営業総収入及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	スマート ストア事業	ローソ ン・ポプ ラ事業	計				
営業総収入							
加盟店からの収入	2,079,541	1,580,261	3,659,802	—	3,659,802	—	3,659,802
直営店舗の売上	500,600	3,056,591	3,557,191	611,001	4,168,192	—	4,168,192
その他の収入	1,210,967	54,313	1,265,280	4,617	1,269,898	—	1,269,898
顧客との契約から 生じる収益	3,791,108	4,691,165	8,482,274	615,618	9,097,893	—	9,097,893
その他の収益 (注) 4	72,447	1,080	73,527	—	73,527	—	73,527
外部顧客への営業 総収入	3,863,555	4,692,245	8,555,801	615,618	9,171,420	—	9,171,420
セグメント間の内 部営業総収入又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	3,863,555	4,692,245	8,555,801	615,618	9,171,420	—	9,171,420
セグメント利益又は 損失(△)	△84,262	691,596	607,334	△1,644	605,689	△243,376	362,312

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理店事業、ドラッグストア及び外食事業であります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、配分されていない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
4. その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号 2007年3月30日 企業会計基準委員会）に基づく賃貸収入等であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、固定資産の減損損失を15,914千円計上しております。当該減損損失の計上額は、「スマートストア事業」セグメントにおいて15,914千円であります。

当第3四半期連結累計期間（自2025年3月1日 至2025年11月30日）

1. 報告セグメントごとの営業総収入及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	スマート ストア事業	ローソ ン・ポプ ラ事業	計				
営業総収入							
加盟店からの収入	1,903,466	1,821,794	3,725,260	—	3,725,260	—	3,725,260
直営店舗の売上	491,657	2,645,860	3,137,517	514,549	3,652,066	—	3,652,066
その他の収入	1,366,627	48,339	1,414,967	3,608	1,418,576	—	1,418,576
顧客との契約から 生じる収益	3,761,751	4,515,994	8,277,746	518,158	8,795,904	—	8,795,904
その他の収益 (注) 4	63,560	1,080	64,640	—	64,640	—	64,640
外部顧客への営業 総収入	3,825,312	4,517,074	8,342,386	518,158	8,860,545	—	8,860,545
セグメント間の内 部営業総収入又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	3,825,312	4,517,074	8,342,386	518,158	8,860,545	—	8,860,545
セグメント利益又は 損失(△)	△207,353	755,450	548,096	2,506	550,602	△264,656	285,946

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理店事業、ドラッグストア及び外食事業であります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、配分されていない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
4. その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号 2007年3月30日 企業会計基準委員会）に基づく賃貸収入等であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、固定資産の減損損失を22,898千円計上しております。当該減損損失の計上額は、「スマートストア事業」セグメントにおいて22,898千円であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。